

## まつした 松下遺跡

**所在地** 岡崎市外山町松下地内  
(北緯 35 度 1 分 4 秒  
東経 137 度 17 分 13 秒)

**調査理由** 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成  
事業

**調査期間** 平成 26 年 5 月～平成 26 年 6 月

**調査面積** 400 m<sup>2</sup>

**担当者** 鵜飼雅弘・三輪みなみ

**調査の経過** 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて調査を実施した。

**立地と環境** 松下遺跡は、岡崎市の外山町に所在する。調査区は東の丘陵の裾に位置し、西には水田と流路がある。調査前の状況は主に杉が植林されていた。標高は約 360m、調査面積は 400 m<sup>2</sup>である。近隣には豊田市の北野田遺跡がある。

**調査の概要** 中世、近世～現代の遺構・遺物を検出した。

中世の遺構は、埋土から山茶碗が出土したことから、0073SK、0077SP、0105SP、0111SK が該当する可能性が高い。遺構外の遺物では、山茶碗、片口鉢などが出土している。特に、山茶碗が北東部の流路沿いの検出面直上で多く出土する傾向がある。山茶碗は摩耗が少ないことから、長距離移動してきたものとは考えにくい。

近世～現代の遺構は、有機物の含み方や土の締まり具合などの埋土の状況から、調査区南西の柵列 (0113SA、0114SA) や杭が出土したピット (0060SP など) が考えられる。ビニール片も出土しており、現代の遺構があることは確実だが、遺構の上限が近世まで遡るかは不明である。近世以降の遺物は陶磁器類が出土している。

ピット、土坑、溝 (0090SD、0091SD)、陥穴 (0103SK) など、ほとんどの遺構は時期不明である。調査区北の東端で検出した 0103SK は、底部にピットを有する形状から陥穴と考えられるが、実際に利用するには浅すぎるため後世に上部を削平された可能性がある。

**まとめ** 松下遺跡では複数の時期の遺物が混在して出土し、層位的に遺構の時期を特定することができなかった。このため、上述の中世、近世～近代の遺構についても、遺構埋土出土遺物が流れ込みであった場合、時期が合わない可能性がある。時期不明の陥穴については、これまで下山において複数の遺跡で検出され、層序などから縄文時代の遺構ではないかと推測されてきた。このことから、松下遺跡においても遺物の上限は中世だが、遺構の時期は更に遡る可能性を考慮する必要がある。  
(三輪みなみ)



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万「東大沼」)

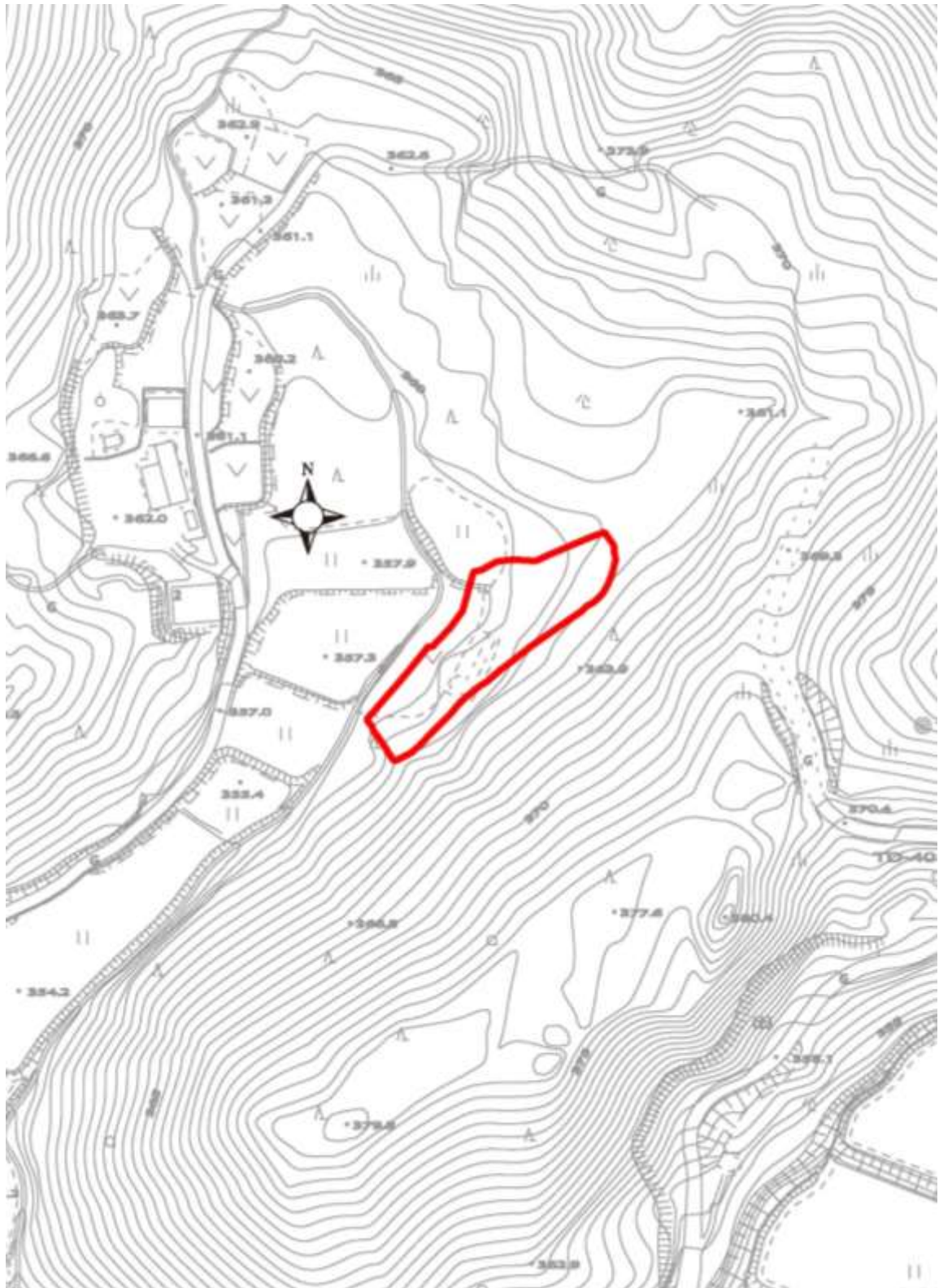


図1 調査区図 (1:1000)

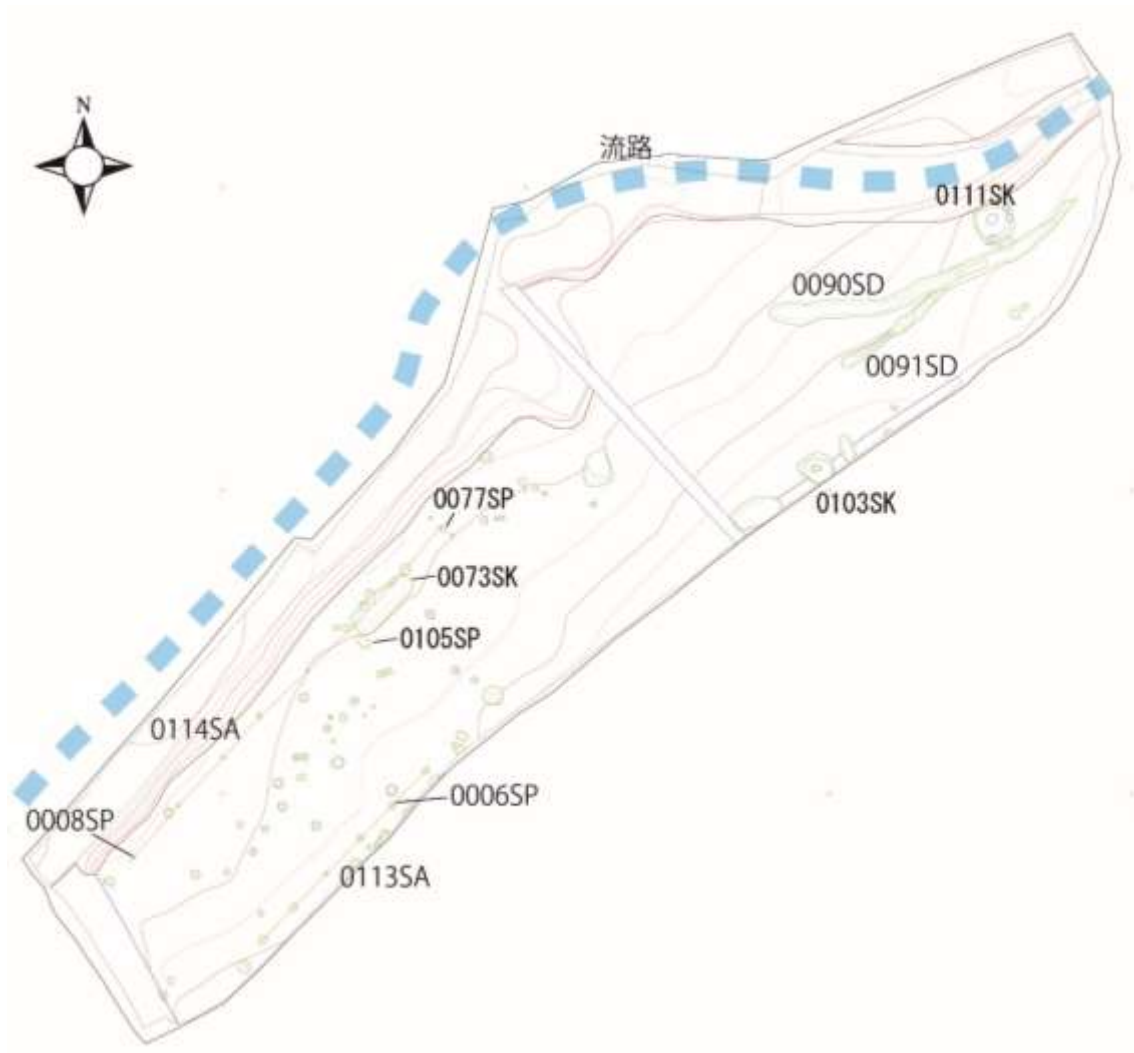


図2 遺構配置図 (1:250)



調査区全景（上が南東）



0006SP（北西から）



0008SP（北西から）



0073SK（南西から）



0111SK（西から）



0090SD（南西から）



山茶碗出土状況（d-0003、北から）



0103SK（北西から）